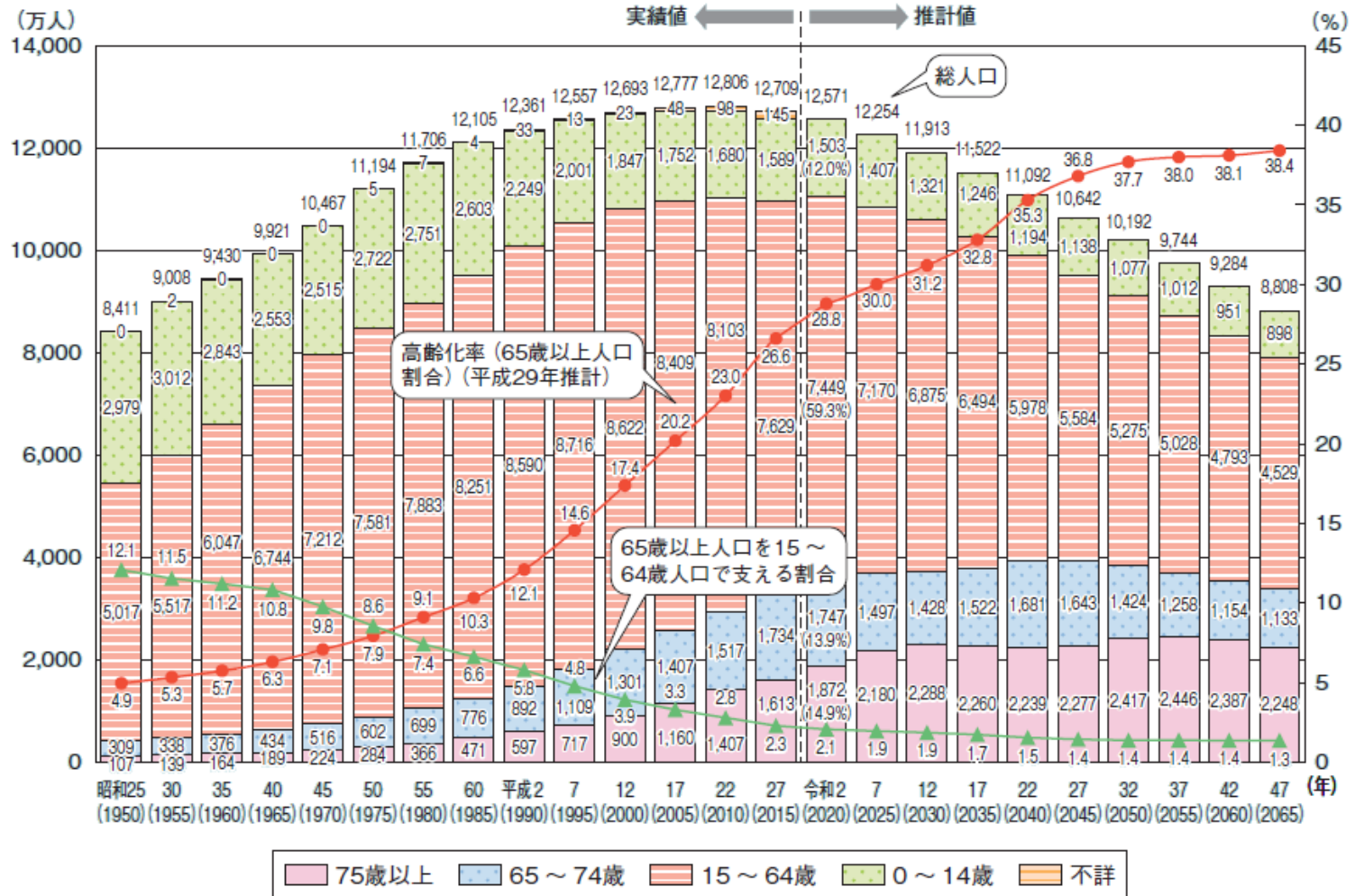


孤独・孤立に関連する各種調査について

内閣官房孤独・孤立対策担当室

日本の人口の推移

○ 日本の人口は近年減少局面を迎えている。2065年には総人口が9,000万人を割り込み、高齢化率は38%台の水準になると推計されている。



資料：棒グラフと実線の高齢化率については、2015年までは総務省「国勢調査」、2020年は総務省「人口推計」（令和2年10月1日現在（平成27年国勢調査を基準とする推計））、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果。

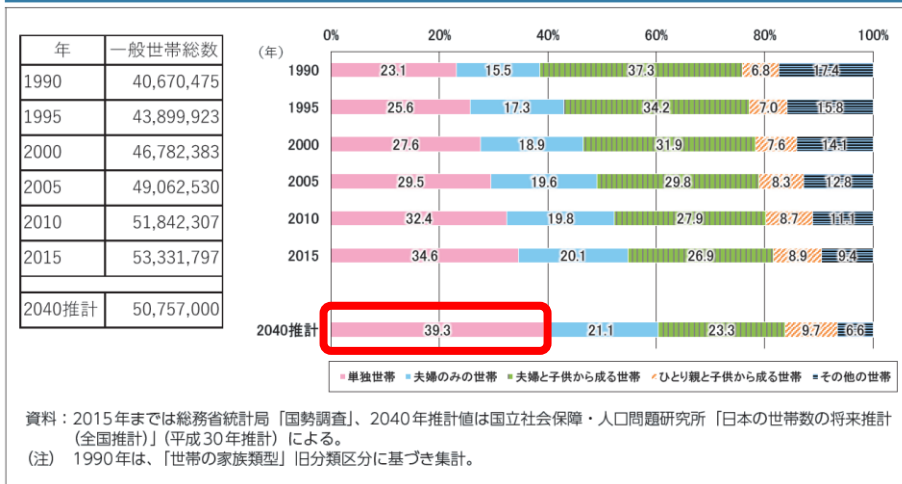
出典：令和3年高齢社会白書

日本の世帯構造の推移

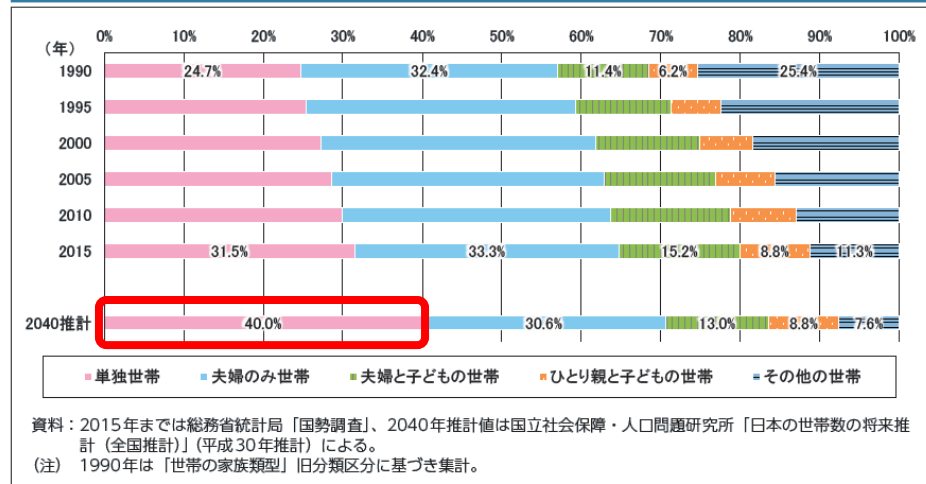
○国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（全国推計）」（平成30年推計）によると、

- ・単独世帯割合の増加は続き、2040年には約39%に達すると見込まれる（注：令和2年国勢調査結果では38.0%）
- ・世帯主年齢65歳以上の世帯では単独世帯が増えており、2040年には4割に達し約900万世帯となる

図表 1-6-2 一般世帯総数・世帯類型の構成割合の推移



図表 1-6-5 世帯主年齢65歳以上世帯の世帯類型の推移



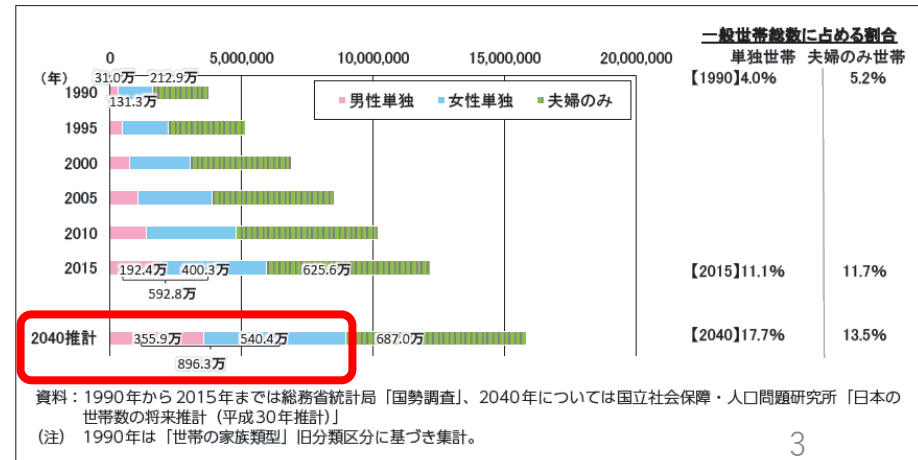
令和2年(2020年)国勢調査結果

2020年10月1日現在

	一般世帯数 (総数)	単独世帯	夫婦のみ の世帯	夫婦と子供 から成る世帯	ひとり親と子供 から成る世帯	その 他の世帯
世帯数	55,704,949	21,151,042	11,158,840	13,949,190	5,002,541	4,443,336
構成比	100.0%	38.0%	20.0%	25.0%	9.0%	8.0%

出典：令和2年厚生労働白書(図表1-6-2,1-6-5,1-6-6)
 総務省「令和2年国勢調査」

図表 1-6-6 世帯主年齢65歳以上の単独世帯・夫婦のみ世帯の世帯数の推移

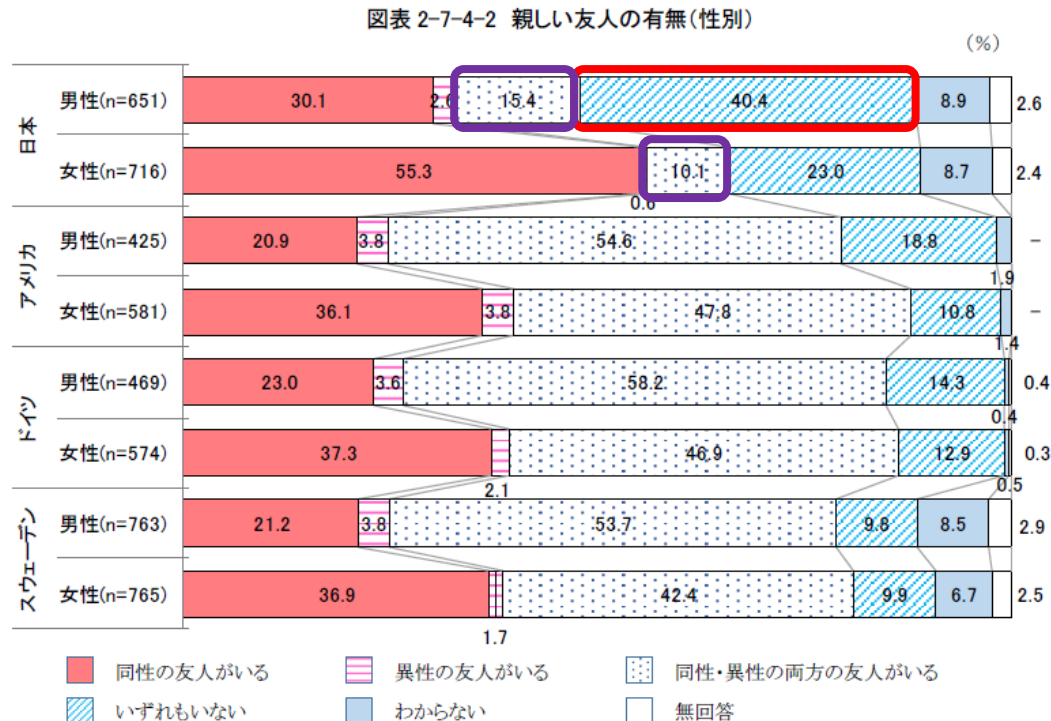


高齢者の生活と意識に関する国際比較調査①

○令和2年度に内閣府が4か国（日本、アメリカ、ドイツ、スウェーデン）の60歳以上の男女を対象に行った調査によると、

【親しい友人の有無】

- ・日本は、男性において「（同性・異性の友人が）いずれもない」という回答が約4割を占める
- ・男女いずれについても「同性・異性の両方の友人がいる」という回答が他国よりはるかに少ない



出典：内閣府「第9回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」

高齢者の生活と意識に関する国際比較調査②

【人との会話頻度】

- ・日本の単身世帯の高齢者で、人との会話が「ほとんどない」と回答した割合は25.4%で、4カ国の中で最も高い
- ・一方、「ほとんど毎日」と回答した割合は23.7%で、4カ国の中で最も低い（5年前と比較して大きく変動しており、コロナ禍の影響も考えられる）

第9回調査（令和2年度）

図表3 人との会話頻度（Q26）

	単身世帯					合計	二人以上世帯(参考)					合計
	ほとんど毎日	週に4、5回	週に2、3回	週に1回	ほとんどない		ほとんど毎日	週に4、5回	週に2、3回	週に1回	ほとんどない	
日本	23.7%	12.4%	22.6%	15.8%	25.4%	100% (n=177)	81.6%	4.4%	5.1%	3.8%	5.1%	100% (n=1148)
アメリカ	48.5%	10.1%	15.2%	13.5%	12.7%	100% (n=355)	80.1%	5.1%	6.7%	3.3%	4.8%	100% (n=628)
ドイツ	48.5%	17.3%	19.9%	8.0%	6.4%	100% (n=423)	76.1%	5.6%	10.0%	4.7%	3.6%	100% (n=611)
スウェーデン	52.2%	9.6%	13.5%	10.3%	14.3%	100% (n=446)	77.2%	5.9%	5.0%	3.7%	8.3%	100% (n=1006)
	p<0.001						p<0.001					

(注)「普段どの程度人（同居の家族、ホームヘルパー等を含む）と直接会って話すか」に対する回答。

出典：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」

図表3 人との会話頻度 第8回調査（平成27年度）

	単身世帯					合計	二人以上世帯					合計
	ほとんど毎日	週に4、5回	週に2、3回	週に1回	ほとんどない		ほとんど毎日	週に4、5回	週に2、3回	週に1回	ほとんどない	
日本	54.4%	15.2%	15.2%	8.2%	7.0%	100% (n=171)	92.4%	1.8%	2.5%	1.1%	2.2%	100% (n=934)
アメリカ	74.2%	13.4%	6.1%	4.7%	1.6%	100% (n=380)	89.4%	5.2%	3.2%	1.3%	1.0%	100% (n=621)
ドイツ	63.7%	14.7%	12.7%	5.1%	3.7%	100% (n=408)	72.7%	9.1%	11.4%	4.4%	2.4%	100% (n=594)
スウェーデン	78.9%	7.3%	8.8%	3.3%	1.7%	100% (n=479)	96.5%	1.0%	1.7%	0.4%	0.4%	100% (n=521)

(注)「普段どの程度人（同居の家族、ホームヘルパー等を含む）と直接会って話をするか」(Q28)に対する回答。

高齢者の生活と意識に関する国際比較調査③

【同居の家族以外に頼れる人】

- ・日本は、「友人」を挙げた割合が14.9%、「近所の人」が15.0%で、いずれも4カ国の中で最も少ない
- ・性別にみると、「頼れる人はいない」の割合は女性よりも男性が高くなっており、4カ国とも同じ

図表 2-7-2-1 同居の家族以外に頼れる人(第8回比較)

		n	別居の家族・ 親族	友人	近所の人	その他	頼れる人はいない	無回答
日本	第9回	1,367	63.1	14.9	15.0	3.7	9.6	17.6
	第8回	1,105	66.2	18.5	18.3	3.7	16.1	0.1
アメリカ	第9回	1,006	55.9	36.8	33.6	15.1	15.6	1.2
	第8回	1,003	60.7	45.0	24.6	7.6	13.0	-
ドイツ	第9回	1,043	73.7	46.4	40.2	5.0	5.1	0.4
	第8回	1,008	69.0	45.0	42.2	5.0	5.8	0.4
スウェーデン	第9回	1,528	65.8	24.8	20.0	7.3	17.5	2.2
	第8回	1,000	59.2	43.4	31.2	7.7	10.8	-

図表 2-7-2-2 同居の家族以外に頼れる人(性別)

		n	別居の家族・ 親族	友人	近所の人	その他	頼れる人はいない	無回答
日本	男性	651	58.7	14.1	14.4	10.1	20.3	2.8
	女性	716	67.0	15.6	15.5	9.1	15.1	2.5
アメリカ	男性	425	50.8	33.9	27.1	13.2	19.8	1.6
	女性	581	59.6	38.9	38.4	16.5	12.6	0.9
ドイツ	男性	469	73.3	48.2	37.3	4.3	7.2	0.4
	女性	574	74.0	44.9	42.5	5.6	3.3	0.3
スウェーデン	男性	763	59.2	25.6	20.7	6.8	24.2	1.4
	女性	765	72.4	24.1	19.3	7.7	10.7	3.0

出典：内閣府
「第9回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」
(第8回は平成27年度に実施)

高齢者の生活と意識に関する国際比較調査④

【同居の家族以外に頼れる人】

- ・年齢別にみると、日本は、年齢が高くなるにつれて「別居の家族・親族」の割合が低くなるが、一方で、「近所の人」などの割合が高くなる

図表 2-7-2-3 同居の家族以外に頼れる人(年代別)

		n	別居の家族・親族	友人	近所の人	その他	頼れる人はいない	無回答	(%)
日本	60～64歳	195	62.1	11.8	6.2	8.2	25.6	1.0	
	65～69歳	302	66.6	11.9	11.9	7.0	19.2	2.3	
	70～74歳	372	65.9	18.8	15.9	8.6	14.5	2.2	
	75～79歳	231	61.5	18.6	18.2	10.8	15.6	2.6	
	80歳以上	267	57.3	12.0	21.0	13.9	15.7	4.9	
アメリカ	60～64歳	189	53.4	35.4	30.2	15.3	21.7	1.1	
	65～69歳	229	53.3	40.2	34.5	15.3	16.6	0.4	
	70～74歳	209	51.2	40.7	36.8	11.0	16.7	1.0	
	75～79歳	174	60.3	36.8	36.2	20.7	10.9	1.7	
	80歳以上	205	62.0	30.2	30.2	14.1	11.7	2.0	
ドイツ	60～64歳	268	71.6	51.9	40.3	4.9	6.0	-	
	65～69歳	209	73.2	56.0	42.1	2.4	6.2	-	
	70～74歳	204	72.1	50.5	38.7	4.4	3.4	0.5	
	75～79歳	194	75.8	43.3	41.2	4.6	5.2	-	
	80歳以上	168	77.4	24.4	38.1	9.5	4.2	1.8	
スウェーデン	60～64歳	302	66.6	29.1	18.9	6.6	20.9	2.0	
	65～69歳	329	65.3	27.1	18.2	6.1	20.7	0.9	
	70～74歳	355	67.9	24.2	20.6	5.1	18.0	1.4	
	75～79歳	254	63.8	26.0	26.0	6.3	15.0	2.4	
	80歳以上	288	64.9	17.4	17.4	12.8	11.8	4.9	

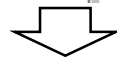
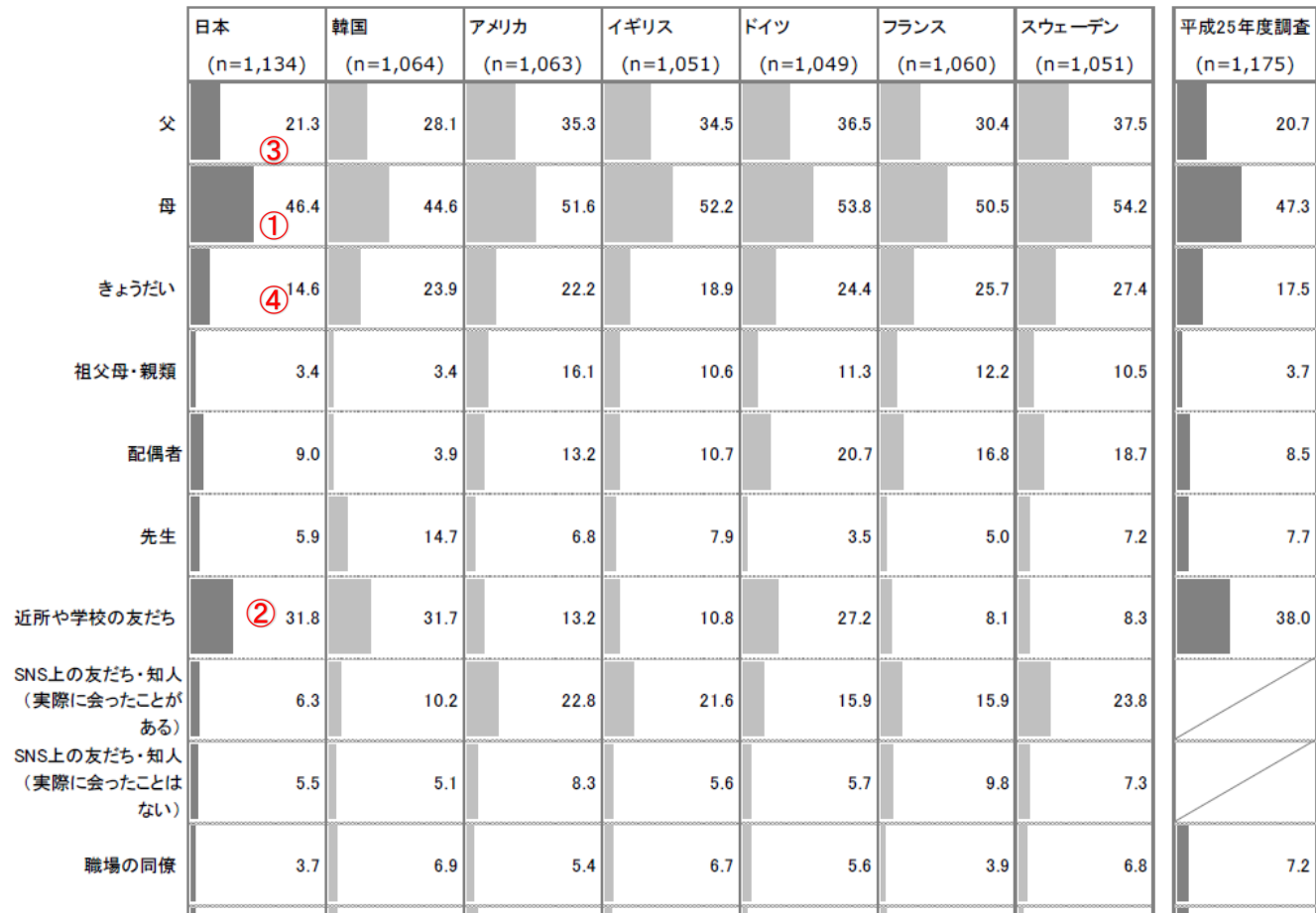
出典：内閣府「第9回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」

我が国と諸外国の若者の意識に関する調査①

○平成30年度に内閣府が7か国(日本、韓国、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、スウェーデン)の13~29歳を対象に行った調査によると、

【悩みや心配事の相談相手】

- ・日本では「母」が46.4%と最も高く、次いで、「近所や学校の友だち」(31.8%)、「父」(21.3%)、「きょうだい」(14.6%)となっている。
- ・「誰にも相談しない」と回答した割合は、日本では19.9%と、7か国の中で最も高い。



出典：内閣府「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」

我が国と諸外国の若者の意識に関する調査②

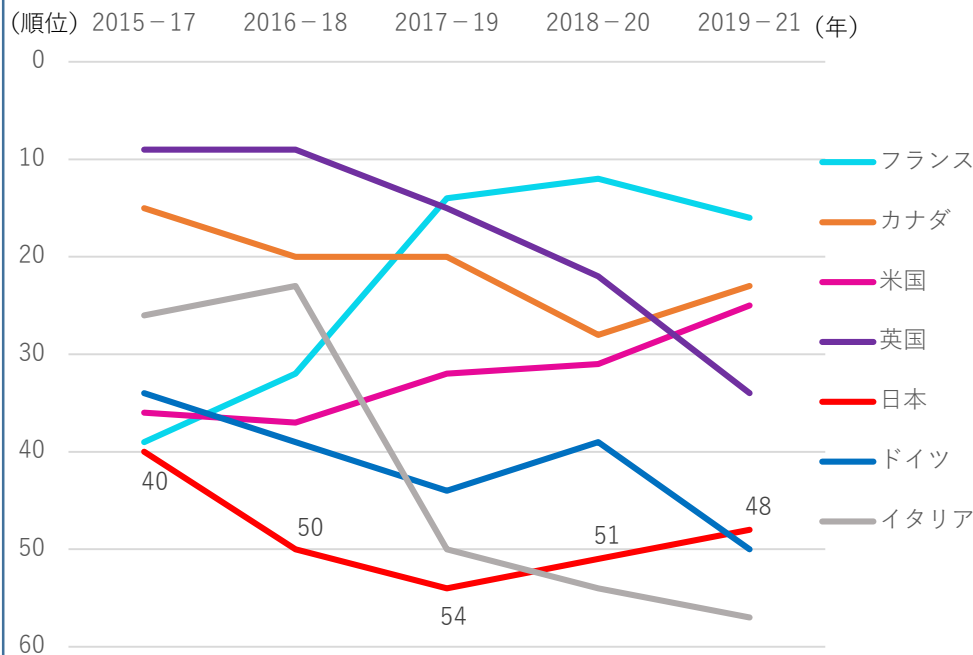
↓ (続き)

団体・グループなどの仲間	3.5	5.7	7.1	4.4	3.7	4.5	3.4	7.1
学校の先輩	4.4	9.8	2.7	3.0	1.9	3.1	2.4	5.5
職場の上役や先輩	2.1	4.4	2.1	2.9	1.8	2.0	1.9	3.7
恋人	11.5	19.4	19.0	17.5	15.8	10.5	9.8	11.6
カウンセラー、相談員	5.3	5.7	8.4	4.9	2.3	5.2	8.7	3.7
宗教関係者	0.4	3.0	5.1	2.2	3.0	1.5	2.9	0.6
テレビ番組・ラジオ番組	0.2	1.2	3.5	2.6	1.3	0.5	3.1	0.4
インターネットのサイト	2.3	4.9	5.9	5.4	2.8	1.6	8.0	4.1
雑誌	-	0.2	1.7	1.4	1.0	0.7	1.8	-
その他	1.4	3.4	2.1	1.3	2.4	1.8	3.8	2.0
だれにも相談しない	19.9	12.2	7.5	8.9	8.8	10.8	6.9	15.7
わからない	6.1	4.2	4.2	3.2	2.2	3.1	3.3	8.3
日本 (n=1,134)	韓国 (n=1,064)	アメリカ (n=1,063)	イギリス (n=1,051)	ドイツ (n=1,049)	フランス (n=1,060)	スウェーデン (n=1,051)	平成25年度調査 (n=1,175)	

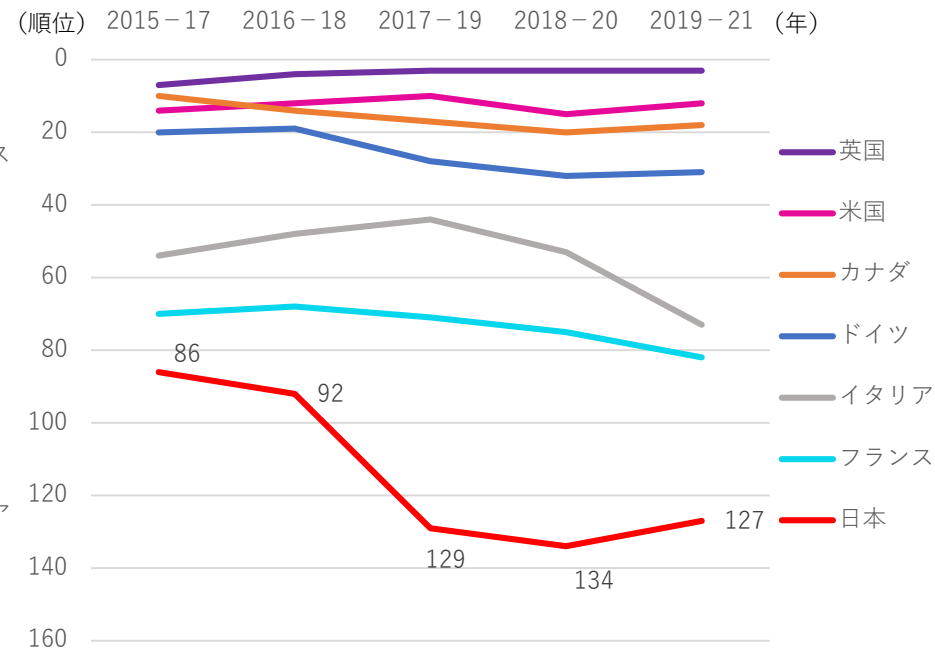
世界幸福度報告（社会関係資本に関する指標）

- 国連の「世界幸福度報告（World Happiness Report）」において、幸福度に影響を与える要因のうち「社会的支援」と「寛容さ」については、社会関係資本に関する指標と見なされることが多い。
- 日本は、「社会的支援」については近年50位前後で推移しており、G7の中では下位グループに位置している。また、「寛容さ」については近年130位前後で推移しており、G7の中では最も順位が低い。

「社会的支援」に関する指標の国別順位の推移



「寛容さ」に関する指標の国別順位の推移



(備考)

1. 国連「世界幸福度報告（World Happiness Report）」より作成。「社会的支援（Social support）」は、「困った時にいつでも頼れる友人や親戚はいるか、いないか」という二者択一の質問への回答を平均したもの。「寛容さ（Generosity）」は、「過去1か月間に慈善団体に寄付をしたか」という質問への回答の平均を一人当たりGDPで調整したもの。

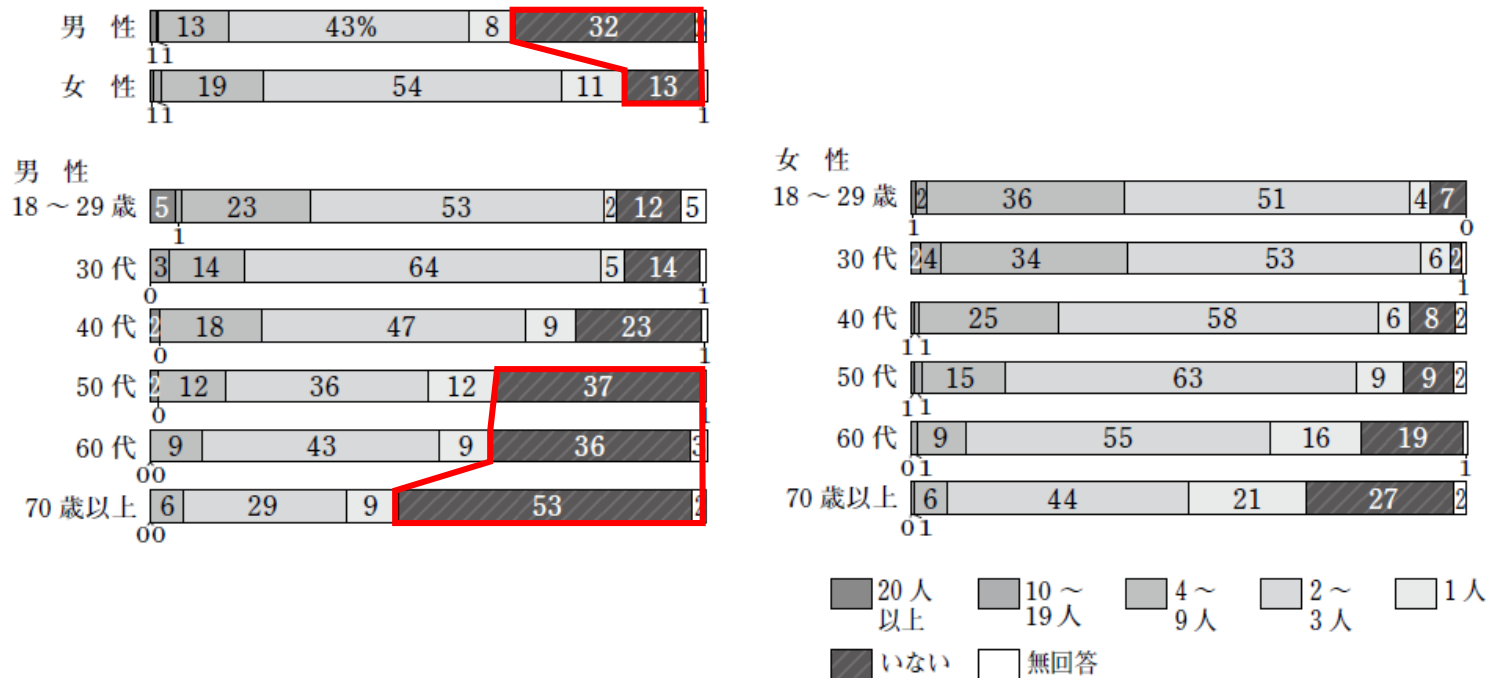
ISSP国際比較調査「社会的ネットワークと社会的資源2017」

○2017年にISSP（国際比較調査グループ）が行った調査によると、

【悩み事を相談できるような友人の数】

- ・「いない」の回答割合をみると、男性は女性の約3倍となっており、年代別にみると男性の50代以降で高くなっており、70歳以上では約5割となっている

図10 悩みごとを相談できるような友人の数（男女・男女年層別）



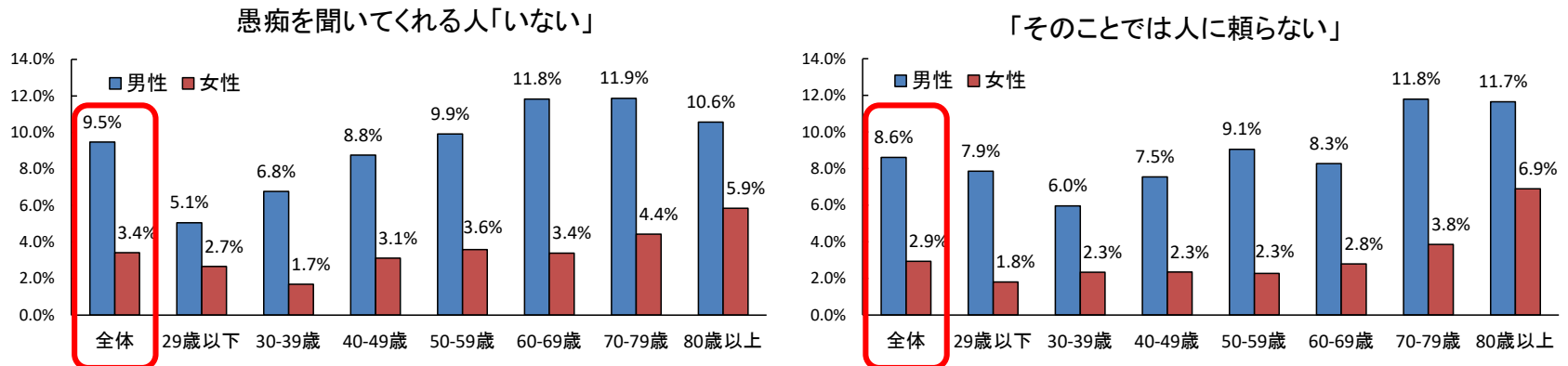
生活と支え合いに関する調査（2017年）

○2017年に国立社会保障・人口問題研究所が行った調査によると、

【愚痴を聞いてくれる人の有無】

- ・「いない」の回答割合をみると、男性は女性の約3倍。いずれの年代でも男性が高く、女性の2～4倍。男性は70歳代の11.9%、女性は80歳以上の5.9%が最高
- ・「そのことでは人に頼らない」の回答割合をみると、上記と同様、男性は女性の約3倍。年代別の傾向も同様で、男性は70歳代の11.8%、女性は80歳以上の6.9%が最高

⇒「いない」及び「そのことでは人に頼らない」者の割合を足し上げると、男性全体では18.1%。
およそ5人に1人は、愚痴に関して人に頼れない又は頼らない状況



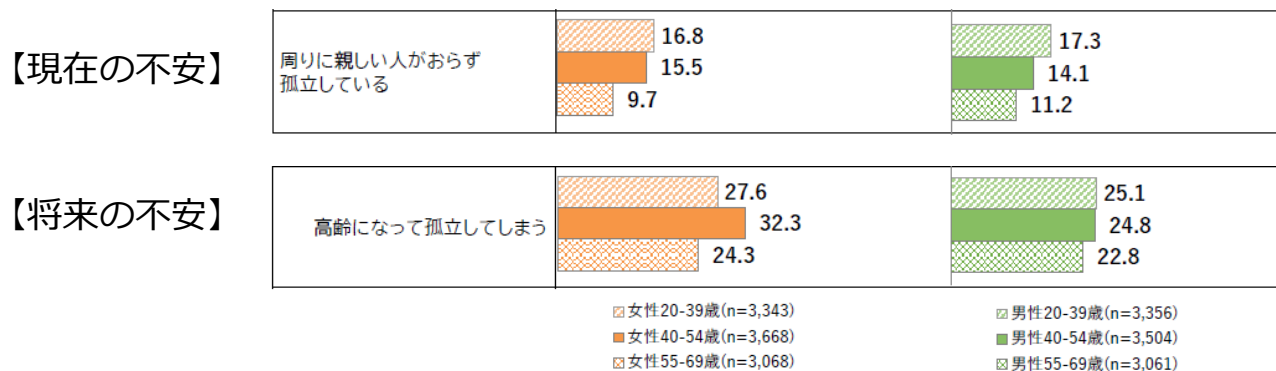
出典：国立社会保障・人口問題研究所「生活と支え合いに関する調査（2017年）」を基に内閣官房で加工

令和3年度人生100年時代における結婚・仕事・収入に関する調査

○令和3年度の内閣府委託調査によると、

【現在の不安／将来の不安】

- ・現在の不安「周りに親しい人がおらず孤立している」に該当すると回答した者の割合は、年齢層が若いほど高い傾向にある。
- ・将来の不安「高齢になって孤立してしまう」に該当すると回答した者の割合は、全体的に女性のほうが高くなっており、女性の40～54歳を除き、年齢層が若いほど高い。



出典：(株)マーケティング・コミュニケーションズ「令和3年度人生100年時代における結婚・仕事・収入に関する調査」
(内閣府委託調査)

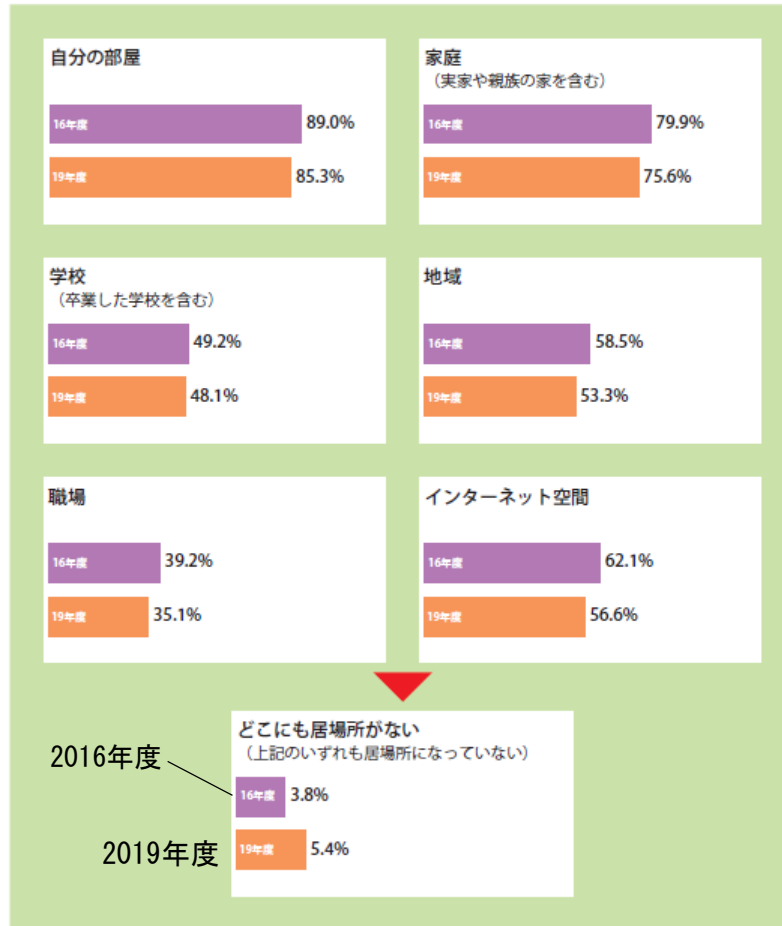
子供・若者インデックスボード①

○内閣府が作成した子供・若者インデックスボードによると、

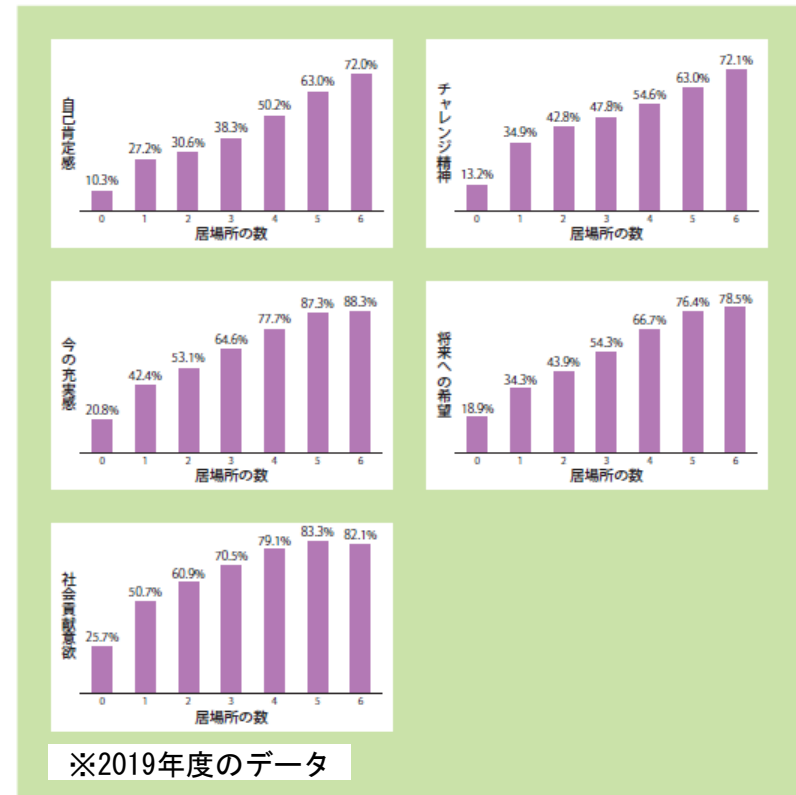
【居場所】

- ・13～29歳の子供・若者の約5%が、ほっとできる場所、居心地のよい場所が「どこにもない」と回答
- ・居場所の数の多さと自己認識の前向きさは、概ね相関

①居場所——次の場所が、ほっとできる場所、居心地のよい場所等になっている



⑥居場所の数と自己認識の関係



居場所の数（自室、家庭、学校、地域、職場、インターネット空間）の多さと自己認識の前向きさは、概ね相関。

出典：内閣府「子供・若者インデックスボードver. 3.0」 (https://www8.cao.go.jp/youth/index_board/index.html)

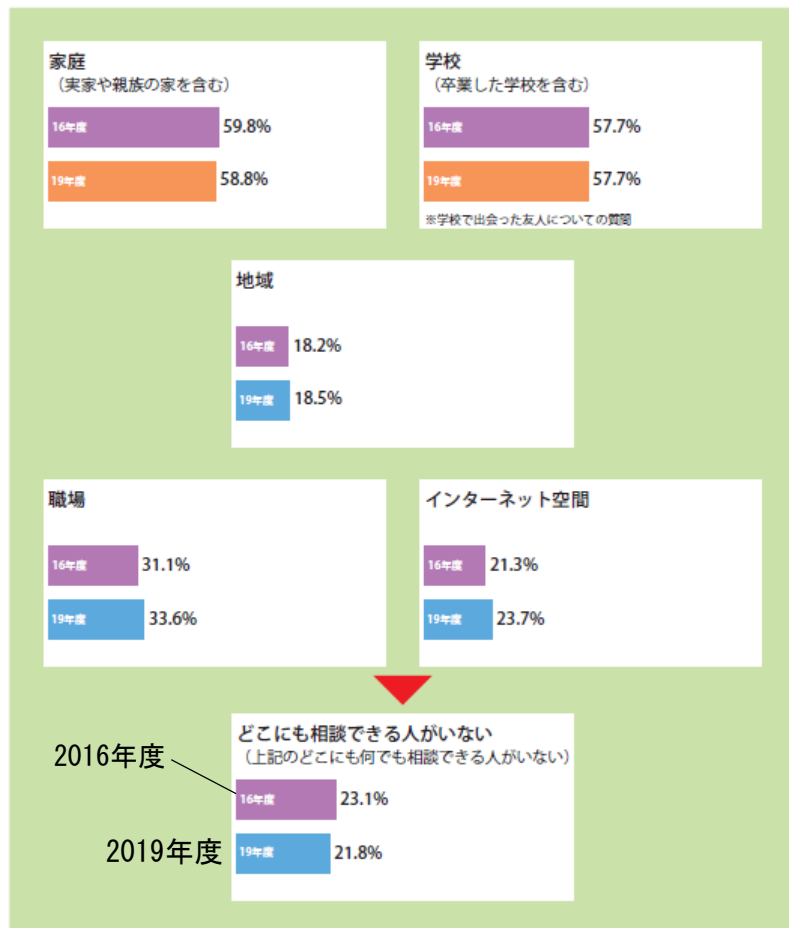
※ここで用いられているデータは、内閣府「子供・若者の意識に関する調査」（2016年度、2019年度）

子供・若者インデックスボード②

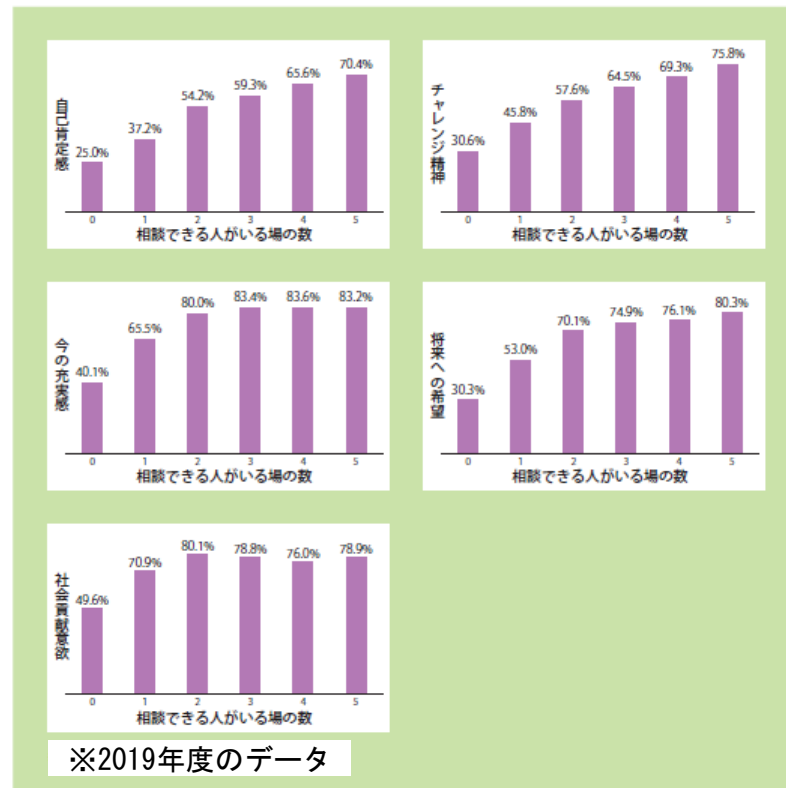
【相談できる人】

- ・何でも相談できる人が「どこにもいない」との回答が約2割
- ・相談できる人がいる場の数と自己認識の前向きさは、概ね相関

②相談できる人—次の場所に、何でも相談できる人がいる



⑦相談できる人がいる場の数と自己認識の関係



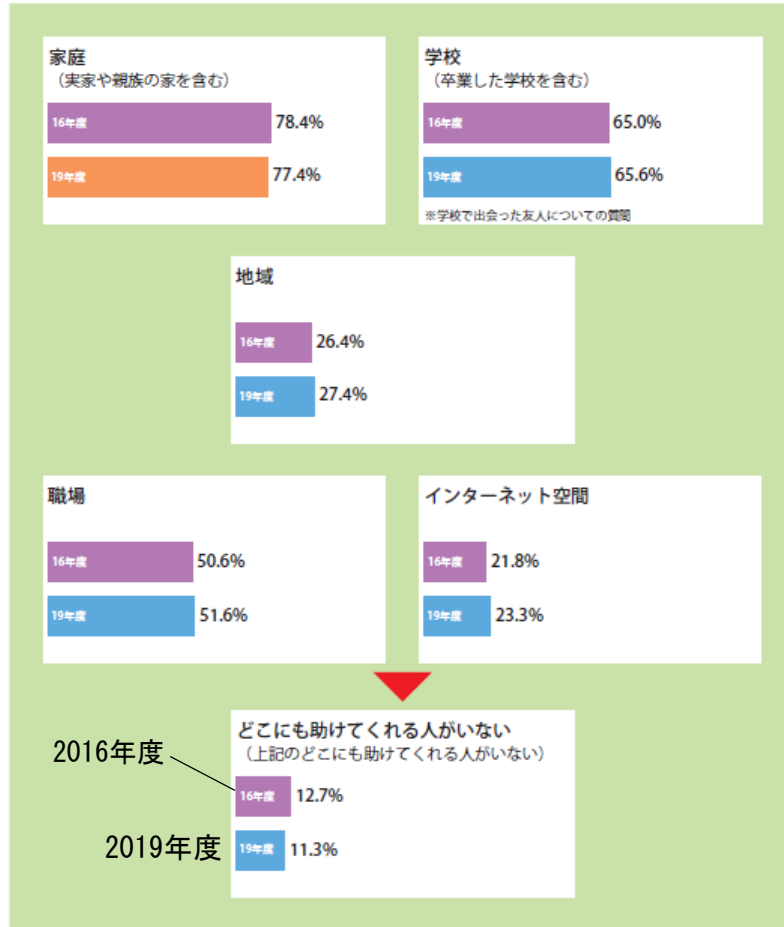
相談できる人がいる場の数（家庭、学校、地域、職場、インターネット空間）の多さと自己認識の前向きさは、概ね相関。

子供・若者インデックスボード③

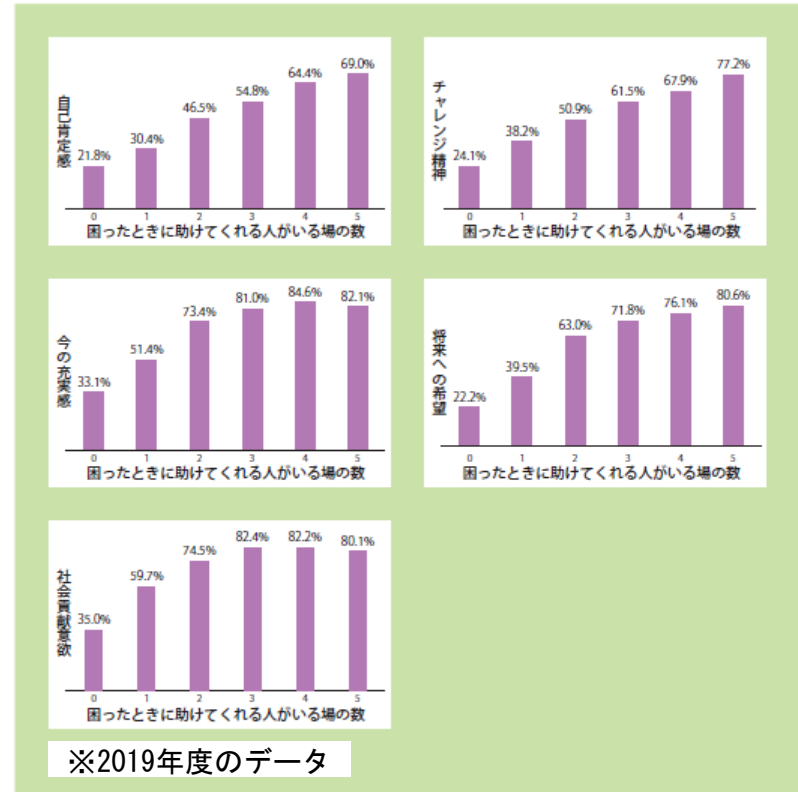
【助けてくれる人】

- ・ 困った時に助けてくれる人が「どこにもいない」との回答が約1割
- ・ 困った時に助けてくれる人がいる場の数の多さと自己認識の前向きさは、概ね相関

③ 助けてくれる人—次の場所に、困ったときに助けてくれる人がいる



④ 困ったときに助けてくれる人がいる場の数と自己認識の関係



困ったときに助けてくれる人がいる場の数（家庭、学校、地域、職場、インターネット空間）の多さと自己認識の前向きさは、概ね相関。